

平成 23 年度研究成果情報

課題名：DNA マーカーを用いたガザミ種苗放流効果の検討

[背景・ねらい]

ガザミは有明海の重要魚種の一つであるが、平成 15 年以降資源が低位状態にある。このため、有明沿岸四県では、ガザミ資源の回復に向け、新たに開発された、DNA 親子判定技術を用いた放流効果調査に取り組んでおり、漁獲混入結果を基に、ガザミ種苗放流の有効性について検討する。

[成果]

- (1) 本県では平成 21、22 年度に C5 (20mm) サイズの種苗 24 万尾、平成 23 年度に C3 (10mm) サイズの種苗 80 万尾を放流した（表 1）。漁獲物への混入状況を調査した結果、本県から放流した種苗が平均 2% の割合で混入していた。
- (2) また、他県が放流した種苗も合わせると、最大 9%（月平均 4%）であった（図 1）。今回の調査により、標識装着が難しかったガザミ種苗の追跡調査が可能となり、放流した種苗が一定の割合で漁獲混入し、漁獲量の底上げに効果があることが示された。

表 1 佐賀県及び他県のガザミの放流尾数

	(万尾)		
	佐賀県	佐賀県 有明海漁協	他県
平成21年	24	147	144
平成22年	24	155	149
平成23年	80	302	182

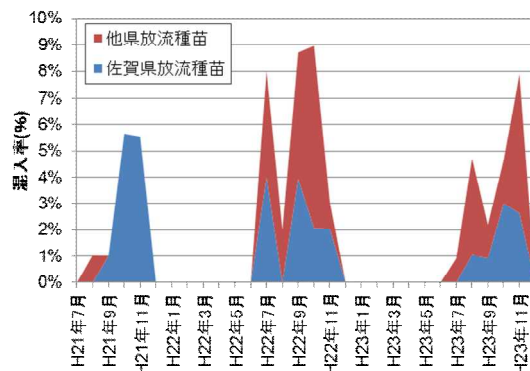


図 1 佐賀県漁獲物への放流種苗の月別混入率

[課題・問題点]

- ・今回、放流種苗が一定の割合で漁獲混入することが確認されたが、ガザミは有明海を広域移動する種であり、放流効果をより正確に把握するためには、有明沿岸四県で協調した調査が必要である。

[今後の対応]

- ・有明沿岸四県での共同効果調査の継続 → 適放流条件（放流サイズ、時期、場所等）の整理 → 共同放流へステップアップ

[その他]

研究期間：平成 21～23 年

研究担当者：資源研究担当 佃 政則